



## 題 空中ドローン大活躍

相模湾試験場では調査船「ほうじょう」から空中ドローンを飛ばし、漁業者が設置している定置網の状態確認及び情報提供を行っております。今回のコラムではその空中ドローンの活躍について記載します。

### ① ドローン

水産技術センター相模湾試験場では空中ドローンと水中ドローンの2種類を所有しております。今回ご紹介するのは、定置網の状態確認等に活用する空中ドローンについてです。



写真1:空中ドローン

←このドローンにカメラが搭載されております。

コントローラーに付属しているモニターにて海上の様子をリアルタイムで確認できます。

### ② 令和元年台風19号被害状況の確認

令和元年10月12日、神奈川県にも接近した台風19号の被害は甚大なものであり、相模湾に設置している定置網は原型をとどめないほどの被害を受けました。その被害状況の確認で活躍したのが、本コラムの主役「空中ドローン」です。台風通過直後、空中ドローンを飛ばし被害状況の確認を行いました。

写真2:台風通過直後の定置網の状況

(撮影:令和元年10月15日  
空中ドローンより)



### Q 定置網漁業とは…

定置網という漁具を使った魚を捕獲する漁法のことです。

[定置網漁業についての詳細はこちら](#)

### ③ 台風被害対応

定置網の再設置の際にも空中ドローンが活躍します。船上からの視線とは異なり、空中ドローンにて上空から撮影することにより、網がきれいに海中へ入っているか等、広範囲で状況把握をすることができます。下記写真3は、今回の台風被害後に再設置が完了した様子です。



写真3:通常の設定網の状態  
(撮影:令和元年12月20日)  
↑定置網の全長:約380メートル



参考:小田原市漁業協同組合の定置網  
(撮影:令和元年11月21日)  
↑定置網の全長:約310メートル

### ④ その他の空中ドローン活躍例

定置網の状態確認以外にも空中ドローンが活躍している場面はいくつかあります。

そのひとつに、**磯根資源調査**での活用があります。

#### Q 磯根資源調査とは…

海底の岩礁箇所を調査するもので、どれくらいの海藻が生えているか、またその周辺の魚類貝類の状態を把握する作業です。

[磯根資源調査についての詳細はこちら](#)

空中ドローンを活用して上空から撮影をすることで、広く海上を視認できます。

今までは潜水作業などにより海底の岩礁箇所を特定していたため、調査できる範囲が限られていました。しかし空中ドローンの活用により、一度に広範囲を調査することができ作業効率アップにつながっております。

写真4のような空撮画像により、海藻が生えていそうな場所を推測でき、潜水作業を行う地点を特定することに活用しております。

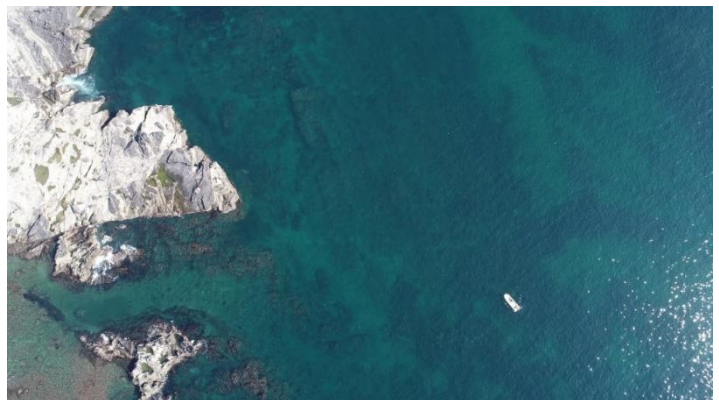


写真4:磯根資源調査での上空からの撮影

このように神奈川県では空中ドローンの有効活用により海の環境、安全を守っております。